

アワビ増殖試験

担当者 増殖課長 津 幡 文 隆

I 調査目的

移殖後のアワビの生長、移動状況及び在来種との比較を行うため標識方法について検討する。

II 調査方法

移殖貝の測定は、殻長、殻巾について行い、標識はボタン式、銅線、銀線、ニクロム線ナイロン糸によって行った。

III 調査内容

- 昭和38年5月17～19日に沢辺、岩崎地区において奥尻産稚貝の測定、標識放流を行った。
- 昭和38年9月11月に尻屋地先において標識放流を行った。

IV 調査結果

イ) アワビ移殖調査

北海道奥尻産のエゾアワビを次の要領で移殖し、測定結果は下記のとおりである。

事業主体	沢 辺 漁 協	岩 崎 漁 協
稚貝放流月日	38年5月19日(7～12時)	38年5月17日(4～7時)
放流稚貝数	14,250個	4,800個
標識方法	呼吸孔にナイロン糸を結ぶ	同 左
標識个体数	300ヶ	300ヶ
放流場所	沢 辺 地 先	岩 崎 地 先
備 考	95函中77函は粒揃いで死貝も2～3%であったが、のこり18函は極めて小型で粒不揃の上死貝10～20%	へい死 6個

測定結果(岩崎漁協)

B/Aの平均値 : 0.72 A:殻長 B:殻巾
 殻長のMin 83mm max 30mm
 殻巾のmin 58mm max 22mm (測定数 300ヶ)

ロ) アワビ標識放流の実施

昭和38年9月11日尻屋において下記の方法により実施した。

方 法	標識数	実施月日
4mmのドリルで穴をあけボタン式標識	100ヶ	38. 9. 5
呼吸孔に標識票を銅線でしぼる	60	38.11. 6
” ” 銀線でしぼる	60	”
貝殻に金切鋸で傷をつけニクロム線でしぼる。	70	”
計	290	

V 今後の課題及び考察

ドリルを使用しての標識は時間を要すると同時に貝そのものを損傷する虞れが多分にあり、銀線は細すぎて能率が悪く、銅線は腐蝕する欠点があり、貝殻に切傷を施したものは、天然のものにもそれに似た欠刻がある等信憑性が薄くなる欠点があることが判った。これより、従前通りの呼吸孔に番号札を付したナイロン糸を結びつける方法が、貝も傷めずまた、割合に能率的でもあり、且つ、事後調査も充分行えるので上記の方法によるのが最も簡便なよい方法と考えられる。